

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援アンデルセン（本館）			
○保護者評価実施期間	R7年 11月 7日		～	R7年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	24
○従業者評価実施期間	R7年 11月 7日		～	R7年 11月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 12月 10日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士がいることで、言語面においてすぐ相談出来ること、また言語聴覚士が直接個別療育を提供していること、職員全員が言語聴覚士監修による言語訓練を行っていることです。	信頼性の高い発達プログラムツールを用いて、発達指数に応じた個別療育を提供しています。	言語聴覚士による勉強会を開催し、職員も認知・言語促進プログラムに沿った適切な支援が行えるようスキルアップを目指します。
2	児童ひとり一人の特性に合わせた活動を、毎回無理なく取り組めるよう配慮や工夫を行っています。	支援後には、その日のお子さまの様子を職員間で共有し、かかわり方を統一したり、お子さまが安心できるよう見通しの持てる環境の整備を行っています。	他事業所・専門職との連携を強化し、支援の質をさらに向上させていきます。
3	保護者様との連携を重視させていただき、日々の活動の様子や出来事、成長を共有させてもらっています。	ラインや連絡帳を使って保護者様に「できたこと」を積極的に伝えたり、共感・共有しながら保護者様の気持ちに寄り添うことを大切にしています。	積極的に保護者様のお悩みや要望・相談事の確認を行い、要望等がある場合は職員間で話し合い、迅速な対応に努めて参ります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の場、保護者間での交流の場が提供できていないこと。	以前から開催計画等はできているが、仕事をしている方が多いので、曜日や時間などの調整で開催できていない。	休日の開催も視野に入れて前向きに検討していく。
2			
3			